

2022 年度事業報告

KDDI 財団では、2022 年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、経済の回復が期待される一方で、国際情勢の緊張化による資源価格の高騰や物価上昇、急速な為替変動および世界的な需給バランスの悪化などにより、依然として先行き不透明な状況が続いており、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）の進捗に影響を与えています。このような社会状況の中、各種施策について実施計画を柔軟かつ適切に調整しながら、公益目的事業たる助成事業、表彰事業、国際協力事業、ICT 普及事業に積極的に取り組みました。

I 組織と運営状況

1. 組織

(1) 役員・評議員

役員は 10 名 [資料 1 : 役員名簿]、評議員は 10 名 [資料 2 : 評議員名簿] です。

(2) 審査委員

審査委員は 13 名 [資料 3 : 審査委員名簿] です。

(3) 会議の開催状況

理事会を 4 回、評議員会を 1 回、審査委員会を 3 回、それぞれ開催しました。

[資料 4 : 会議の開催状況]

II 事業活動

1. 助成事業

(1) 調査研究助成

ICT が拓く豊かな未来社会をテーマとし、ICT の普及・発展、グローバル化、ICT を活用した社会的課題の解決に寄与する調査、研究（技術、産業、制度、社会、文化など）に対する『調査研究助成』は、公募による募集・審査の結果、33 件の応募がありました。「社会的課題の明確さ」、「具体的な創造価値」、「新規分野の開拓」、「グローバル研究」などに主眼をおいて審査を行うとともに、助成枠を拡大し、13 件について合計 3,695 万円の助成を実施しました。

[資料 5 : 調査研究助成]

(2) 社会的・文化的諸活動助成

ICT を通じて社会、教育、環境などの課題解決や地域社会の国際化の促進に貢献する各種の非営利団体（NPO）・非政府組織（NGO）の活動、ならびに開発途上国におけ

る教育、文化、生活支援などの活動に対する『社会的・文化的諸活動助成』は、公募による募集・審査の結果、3件について合計294万円の助成を実施しました。

[資料6：社会的・文化的諸活動助成]

(3) 目的型諸活動助成

SDGs 促進の視点に立ち、日本国内におけるデジタルデバイド解消の貢献活動に対する『目的型諸活動助成』は、「課題解消による社会的貢献」や「課題解決策」などに主眼を置いた審査の結果、1件について300万円の助成を実施しました。

[資料7：目的型諸活動助成]

(4) 国際会議開催助成

ICTの普及・発展に寄与する国際会議に対する『国際会議開催助成』は、公募による募集の結果11件の応募があり、情報通信の普及・発展への寄与度、先端性などに主眼を置いた審査の結果、8件について合計400万円の助成を実施しました。

[資料8：国際会議開催助成]

(5) 留学生助成

① 外国人留学生助成

海外から日本に留学中で、国内外の情報通信の普及・発展、グローバル化に貢献する分野で研究を行う外国人大学院生を対象とし、指定校から推薦された24名の候補者から12名（理系11名、文系1名）を選考し、合計1,260万円の助成を実施しました。

② 日本人留学生助成

日本から海外に留学する者で、法律、経済、社会、文化、技術の各分野において国際的視野に立ち、社会に貢献するテーマで研究を行っている大学院生を対象とし、指定校から推薦された10名の候補者から4名を選考し、合計1,700万円の助成を実施しました。

③ 語学留学助成

国際的な知見に立ち、日本と東南アジア諸国の発展に貢献することを目指し、ビルマ語、モンゴル語、カンボジア語の習得のために当該国に留学する日本人大学院生を対象とし、指定校から推薦された2名の候補者から2名を選考し、合計110万円の助成を実施しました。

[資料9：留学生助成]

(6) 著書出版・海外学会等参加助成

海外学会などへ参加するための助成は、6件205万円の助成を実施しました。

情報通信に係る論文誌（Nextcom）の著書出版助成は、審査の結果、助成に至りませんでした。

[資料 10：海外学会等参加助成]

(7) 青少年啓発・育成活動助成

① 科学実験教室

情報通信振興の視点から、青少年の科学技術への好奇心醸成と啓発を目的として開催される「科学実験教室」への助成を実施しました。2022 年度より慶應義塾大学、大阪大学を追加し、香川大学、九州大学、北海道大学、広島市立大学の 6 大学で実施され、合計 1,343 名の方に参加いただきました。なお、コロナ禍の影響により、東北大学と名古屋大学は開催を見送りました。合計 512 万円の助成を実施しました。

② 中高生への即興型英語ディベートの普及

全国の中高生を対象とした即興型英語ディベートの普及活動を通じて、グローバル人材育成に寄与する PDA（一般社団法人パラメンタリーディベート人材育成協会）の活動を支援しました。地理的障壁を取り除き、多様な人々との交流を目的とした遠隔ディベートシステム構築に対する支援として、合計 200 万円の助成を実施しました。

2. 表彰事業

公募による募集・審査の結果、『KDDI Foundation Award』は、21 件の応募があり、本賞 1 件 200 万円、業績賞 5 件 計 500 万円、貢献賞 1 件 50 万円、合計 750 万円を贈呈しました。

[資料 11：KDDI Foundation Award 本賞・業績賞・貢献賞]

3. 国際協力事業

(1) 開発途上国の人材育成に資する技術研修の実施

開発途上国における情報通信の改善・拡充を担う人材育成のために、APT（アジア・太平洋電気通信共同体）の計画に基づき、「サイバーセキュリティ技術研修～最近のリスク動向とその対策」を実施しました。

[資料 12：開発途上国の人材育成に資する技術研修の実施状況]

(2) 国際会議への参加

ITU-D（国際電気通信連合 開発部門）や APT の国際会議に参加し、ICT による先進技術やサービスの紹介、およびプロジェクト成果報告を行うことで途上国支援に貢献しました。

(3) 開発途上国におけるデジタルデバイド解消プロジェクトの実施

モンゴルのルーラル地域での光ファイバー構築プロジェクト（極寒で利用可能な低コスト光ファイバー）は、ウランバートル郊外のテレジにおいて竣工し、記念式典を開催してプロジェクトの成果報告会を実施しました。また、FM ラジオ放送による緊急警報放送システム(EWBS: Emergency Warning Broadcast System)は、日蒙での調査研究を完了し、パイロットプロジェクトに発展しています。

ネパールのルーラル地域でのネットワーク拡張プロジェクトでは、医療・教育・行政分野のデジタルイゼーションを促進しています。また、現地で活動する NPO とともに、ネパールにおける ICT を利用した地域医療を支援する取組みを開始しました。

ベトナムでの災害対策システム実証プロジェクトでは、ドローンから撮影した被災地の画像を分析するシステムを構築し、そのプロジェクトの成果や活用案を報告しました。AI チャットボットプラットフォーム実証プロジェクトでは、新型コロナウイルス感染症の症状ごとのオンラインアドバイスに加え、チャットボットプラットフォームに関する標準化について研究しました。新たに手話学習システムの調査研究を開始し、ICT を活用して手話利用者の支援を図っています。

ミクロネシア連邦では、コミュニティネットワークおよび遠隔周産期医療の調査研究を継続しています。

ラオスでは、新たに通信ネットワーク品質改善の調査研究を開始しました。

日本の学校教育課程における情報教育の取組をアジア・太平洋各国に紹介するパブリケーション活動を推進しています。

[資料 13：開発途上国におけるデジタルデバイド解消プロジェクトの実施状況]

(4) 開発途上国における教育文化支援の実施

開発途上国教育支援を目的とした「チャリティコンサートクラシック 2023」を開催しました。

カンボジアでは、Tumnop 109 KDDI スクール（13 校目）の開校式、並びに美術教室を開催しました。また、KDDI ラーニングセンターの開所式を行いました。伝統芸能スバエクトム影絵芝居（Ty Chean 一座）については、Ty Chean 一座の後継者向け研修や寺院・学校での上演活動への支援を行いました。

ミャンマーでは、New Zero Art Village School（ペイネーコン村）の教育プログラムを支援しました。

ネパールでは、誰一人取り残さない教育を目指し、視聴覚障がい者向けデジタル教材では、3 校への継続のほか、特別支援学校 5 校へ追加支援しました。論理的思考を育むための「楽しみながら学ぶロボットプログラミング教育」では、11 校に対して現地の先生方向けの取組みを継続し、支援校間によるロボット競技会の開催を推進しています。ICT 教育プロジェクトでは、遠隔地域の学校 6 校へ支援しました。

ベトナムでは、コロナ禍で離職した技術者の再教育や就職支援のための e ラーニングプラットフォームの拡張プロジェクトを推進しています。

(5) NPO 支援の実施

国際協力活動を幅広く展開する NPO の活動支援を目的に、通信インフラ運用（ウェブ
サイト運用関連）の支援を継続実施しました。また、ジャパン・プラットフォームへの支援を実
施しました。

4. ICT 普及事業

(1) 「MCPC モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会」の実施

「MCPC モバイルシステム技術検定対策講習会」の 1 級・2 級コース、および「IoT システ
ム技術検定対策講習会」の基礎・中級コースをそれぞれ一般向けに会場およびオンラインを
併用して、春期および秋期に開催しました。また企業に対して、個別でオンライン講習会を開
催しました。

[資料 14 : MCPC モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会の実施状況]

(2) 国際コミュニケーション・フォーラムの開催

公益財団法人情報通信学会との共催により、春季（第 46 回）及び秋季（第 47 回）
国際コミュニケーション・フォーラムをオンラインにて実施しました。春季は電波の有効利用に向
けた再配分の方向性について、秋季は WEB3 関連のコンテンツ領域の紹介とメタバースの長
期的な展望について、をテーマとして開催しました。

(3) 広報誌の発行

2022 年版財団広報誌（KDDI FOUNDATION Vol.14）を 1,800 部発行し、大学
などの教育機関、研究機関、財団関係者、最近の助成対象者を中心に配布しました。

(4) 「衛星通信年報」の発行

衛星通信に関する我が国の政策、事業活動、国際機関の活動など、国内外の動きをまと
め、令和 4 年版を 2 月 28 日に発行しました。

(5) デジタル・シティズンシップ教育の実施

2022 年度から、国内におけるデジタル・シティズンシップ（以下、DC と略）教育の啓発を
目的として、以下を実施しました。

- ① 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会（JDiCE）と共催で、DC 教育の理解促進
と幅広い方への情報提供を目的に、「メディア論」を軸としたオンラインゼミを 2 回、DC 教
育の実践者による発表やトークセッションなど、ハイブリッド（オンライン及び集合型）にて、
2 回開催しました。
- ② 一般社団法人ソーシャルメディア研究会と共催で、DC 教育に関する指導者の資質向

上を目的に、学習指導用マニュアルの DC 教育動画教材を共同制作しました。

5. 収益事業

IPSTAR 社向け技術コンサルティングを継続実施しました。

Ⅲ 事業報告の附属明細書

2022 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しておりません。

以 上

役員名簿

(敬称略・理事は五十音順、◎印は常勤)

(2023 年 3 月 31 日現在)

財団役職	氏名	所属・職位
理事長	阿野 茂浩	KDDI 株式会社 次世代自動化推進本部 シニアディレクター
専務理事◎	真鍋 洋文	
理事	江崎 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授、 デジタル庁 シニア エキスパート(アーキテクチャ)(非常勤)
理事	大橋 弘	東京大学 副学長、東京大学公共政策大学院 教授、 東京大学大学院経済学研究科 教授
理事	関根 千佳	株式会社ユーディット 会長兼シニアフェロー、 同志社大学 客員教授
理事	長谷山 美紀	北海道大学 副学長、大学院情報科学研究院長
理事	松田 浩路	KDDI 株式会社 執行役員 経営戦略本部長 兼 事業創造本部長
理事	山内 弘隆	武蔵野大学経営学部 特任教授、 運輸総合研究所 所長、一橋大学 名誉教授
理事	脇濱 紀子	京都産業大学現代社会学部 教授
監事	松永 幸廣	PwC 京都監査法人 パートナー 公認会計士

評 議 員 名 簿
(敬称略・五十音順)

(2023年3月31日現在)

氏 名	所属・職位
内海 善雄	元国際電気通信連合 事務総局長
金子 郁容	慶應義塾大学 名誉教授
姜 尚中	東京大学 名誉教授、熊本県立劇場 理事長兼館長、 鎮西学院 学院長
児玉 圭司	日本放送協会 理事・技師長
菅谷 実	慶應義塾大学 名誉教授
田中 孝司	KDDI 株式会社 代表取締役会長
辻 正次	神戸国際大学 学長、大阪大学 名誉教授、 兵庫県立大学 名誉教授
土井 美和子	国立研究開発法人情報通信研究機構 監事、 奈良先端科学技術大学院大学 理事、東北大学 理事
日比野 隆司	株式会社大和証券グループ本社 取締役会長兼執行役、 大和証券株式会社 取締役会長
保坂 雅樹	西村あさひ法律事務所 パートナー 経営会議議長 弁護士

審査委員名簿
(敬称略・委員は五十音順)

(2023年3月31日現在)

氏名	所属・職位	専門分野
委員長 森川 博之	東京大学大学院工学系研究科 教授	ネットワーク
委員 加藤 寧	東北大学大学院情報科学研究科 研究科長 教授	情報通信技術論
後藤 玲子	茨城大学人文社会科学部法律経済学科 教授	経済政策論・政策評価
眞田 幸俊	慶應義塾大学理工学部電子工学科 教授	ブロードバンド無線システム
穴戸 常寿	東京大学大学院法学政治学研究科 教授	情報法
高田 潤一	東京工業大学環境・社会理工学院 学院長/教授	電波伝搬・電波応用計測
釣谷 剛宏	株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員	
戸川 望	早稲田大学大学院基幹理工学研究科 教授	SoC 設計技術
中小路 久美代	公立ほこだて未来大学システム情報科学部 情報アーキテクチャ学科 教授	インタラクティブデザイン
中村 彰宏	中央大学経済学部 教授	公共経済学
林 秀弥	名古屋大学大学院法学研究科 教授 同アジア共創教育研究機構 教授	経済法
村上 陽亮	株式会社 KDDI 総合研究所 執行役員	
湧口 清隆	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント 学科 教授	情報通信の経済政策

会議の開催状況

1. 理事会

回数	開催年月日	議題・報告事項
第 41 回	2022.5.20	(議題) 1. 2021 年度事業報告 2. 2021 年度決算報告 3. 第 19 回評議員会の招集および提出議題 (報告) 1. 職務執行状況の報告
第 42 回	2022.6.8	(議題) 1. 理事長及び専務理事の選定 2. 審査委員の委嘱
第 43 回	2022.9.7	(議題) 1. 2022 年度 KDDI Foundation Award の対象者(案)
第 44 回	2023.3.17	(議題) 1. 2023 年度事業計画(案) 2. 2023 年度収支予算(案) 3. 2023 年度助成の対象(案) 4. 審査委員の委嘱 (報告) 1. 職務執行状況の報告

2. 評議員会

回数	開催年月日	議題・報告事項
第 19 回	2022.6.8	(議題) 1. 2021 年度決算報告 2. 役員の選任 (報告) 1. 2021 年度事業報告 2. 2022 年度事業計画及び収支予算 3. 審査委員の委嘱

3. 審査委員会

開催年月日	議題
2022.4.25	2022 年度 KDDI Foundation Award 第一次選考
2022.8.17	1. 2022 年度 KDDI Foundation Award 本審査 2. 2023 年度助成プログラム審査要項説明
2022.12.27	1. 2023 年度助成プログラム審査 2. 助成プログラムにおける課題

調査研究助成

研究者	研究テーマ	研究期間	助成額 (千円)
梶本 裕之 電気通信大学 情報理工学研究科 情報学専攻 教授	電気触覚を用いた携帯機器の 画面拡張	2023.4.1 ~ 2025.3.31	3,000
双見 京介 立命館大学 情報理工学部 助教	サイレントスピーチのためのアイウ ェア基盤	2023.4.1 ~ 2025.3.31	2,997
山下 晃弘 東京工業高等専門学校 情報工学科 准教授	日本語書類の構造解析に基づ く自動点字翻訳	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
横山 諒一 慶應義塾大学 医学部 石井・石橋記念講座 専任講師	ICT を用いた全身皮膚スキャナ ーの開発	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
庄野 直之 東京大学 医学部 医学科 脳神経外科学教室 助教	深層学習での脳動脈瘤頸部 閉鎖クリップ生成	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
宗 秀哉 湘南工科大学 工学部 電気電子工学科 講師	多端末接続のためのユーザ探 索技術	2023.4.1 ~ 2026.3.31	2,999
大津 耕陽 立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 助教	ロボットとの共創活動に基づく 認知症者支援	2023.4.1 ~ 2026.3.31	2,954
小林 孝一 北海道大学大学院 情報科学研究院 准教授	人間の意思決定を含む CPS の 設計論と応用	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
菊池 志乃 名古屋市立大学 大学院医学研究科 共同研究教育センター 緩和ケアセンター 助教	過敏性腸症候群に対するオンラ イン心理療法	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
松本 朋哉 小樽商科大学 商学部 経済学科 教授	コロナ後の途上国： 経済復興と電子マネー	2023.4.1 ~ 2024.3.31	3,000
河合 晃一 金沢大学 人間社会研究域法学系 准教授	実験手法による市民参加型ア プリの効果検証	2023.4.1 ~ 2026.3.31	3,000
楊 雨双 立命館大学大学院 社会学研究科 応用社会学専攻 博士 2 年	社会運動における ICT の応用	2023.4.1 ~ 2024.3.31	1,000

山田 雅之 九州工業大学 教養教育院 准教授	乳幼児の姿勢モニタリングシステムの開発	2023.4.1 ~ 2024.3.31	3,000
合計	13 件		36,950

資料 6

社会的・文化的諸活動助成

団体名	活動名称	活動時期 活動場所	助成額 (千円)
NPO 法人 オン・ザ・ロード	インドの貧困層を対象に貧困脱却する為のコーチングスクールによるキャリア・教育支援	2023.4.1 ~ 2024.6.30 インド共和国 ウッタールプラデーシュ州バラナシ/ラームナガル地区	1,000
NPO 法人 アクセプト・インターナショナル	ソマリアでの投降兵を対象とした、ICT 導入による脱過激化・社会復帰支援	2023.4.1 ~ 2024.6.30 ソマリア ガルムドゥグ州ドウサマレブ	979
NPO 法人 リテル	STEAM 教育の普及・啓発コンテンツ制作活動	2023.4.1 ~ 2024.6.30 東京都豊島区	960
合計		3 件	2,939

資料 7

目的型諸活動助成

団体名	活動名称	活動時期 活動場所	助成額 (千円)
一般社団法人 ソーシャルメディア研究会	子どもたちの安心安全なネット・スマホの利用支援活動	2023.4.1 ~2026.3.31 近畿地方(オンラインは全国)	3,000
合計		1 件	3,000

資料 8

国際会議開催助成

申請団体	主催団体名	会議の名称	助成額 (千円)
第 35 回 国際電波科学連合 総会実行委員会	電子情報通信学会、 国際電波科学連合 (URSI) 、日本学術会議	第 35 回国際電波科学連合総会 XXXVth URSI General Assembly and Scientific Symposium	500
OFS28 日本委員会	OFS28 日本委員会、光ファイバセンシング振興協会	第 28 回光ファイバセンサ国際会議 28th International Conference of Optical Fiber Sensors	500

ISAAC2023 組織委員会	ISAAC2023 組織委員会	International Symposium on Algorithms and Computation 2023 (ISAAC2023)	500
ACNS 2022 実行委員会	ACNS 2022 実行委員会	第 21 回応用暗号化とネットワークセキュリティに関する国際会議 21st International Conference on Applied Cryptography and Network Security	500
PHMAP 実行委員会	日本航空宇宙学会	健全性予測及び管理技術に関するアジア太平洋地域国際会議 Asia Pacific Conference of the Prognostics and Health Management Society	500
SISPAD2023 実行委員会	応用物理学会	半導体プロセスとデバイスのシミュレーションに関する国際会議 2023 Int. Conf. Simulation of Semiconductor Processes and Devices 2023	500
ISMVL2023 実行委員会	IEEE コンピュータソサエティ、多値論理研究会	第 53 回 IEEE 多値論理国際シンポジウム IEEE 53rd International Symposium on Multiple-Valued Logic	500
EM-NANO2023 組織委員会	応用物理学会	第 9 回有機・無機電子材料とナノテクノロジーに関する国際シンポジウム The 9th International Symposium on Organic and Inorganic Electronics	500
合計		8 件	4,000

資料 9

留学生助成

①外国人留学生助成

助成対象者	研究テーマ	国籍	月数	助成額 (千円)
MUHAMMAD ALQAAF SUBANDOKO ムハンマド アルカフ スバンドコ 奈良先端科学技術大学院大学修士 1 年	Prediction of Natural Products as Binding Molecules to COVID19 Spike Proteins	インドネシア	6	600
SHARARA REHIMI シャララ レヒミ 名古屋大学大学院 博士 1 年	Converter-based Dynamic Shaping in Renewable Integrated Power Grids	イラン	12	1,200
SANABRIA FELIPE サブリーナ フェリペ 上智大学大学院 修士 2 年	Carbon footprint of a Japanese university: The case of Sophia University campus	コロンビア	6	600
SHARMA SHREYAS シャーマ シュレヤス 北海道大学大学院 修士 1 年	Development of Composite Actuator System for Adaptive and Compliant Gripper Mechanism and Analysis of Control Method based on Machine Learning	インド	12	1,200

NGUYEN HUY LAN グエン フイ ラン 東京農工大学大学院 修士 1 年	セグメンテーションを用いた位置推定および物体トラッキング	ベトナム	12	1,200
DYG FARAH AIDHA BINTI AWG IDRUS ダヤン ファラー アイダ ビンチ アワン イドラス 上智大学大学院 修士 2 年	Analysis of Combustion Characteristic of Ammonia-Gasoline Mixture with a Supercharger	マレーシア	6	600
NGUYEN DANG MAN グエン ダン マン 北陸先端科学技術大学院大学修士 2 年	A Model for Automatic Generation of Personalized Image Descriptions	ベトナム	12	1,200
JOSHUA CHOMBO ジョシュア チョンボ 豊橋技術科学大学大学院大学修士 1 年	Epitaxial growth and evaluation of Ge wire-structure on Si for light emitter applications	ザンビア	12	1,200
CHINDAUDOM ARAN チンダウドム アラン 北陸先端科学技術大学院大学 修士 2 年	Adversarially Robust Traffic Signs for Autonomous Driving Systems	タイ	12	1,200
CHAVES SILVA ROMULO チャベス シルバロムロ 東京大学大学院 修士 1 年	果実摘果を自動化させるロボットの開発	ブラジル	12	1,200
NGUYEN HUU THO グエン ヒュー トー 長岡技術科学大学大学院 修士 1 年	深層学習を用いたポリープ検出	ベトナム	12	1,200
WISALRAKIJ CHANYA ウィサンラキイ チャンヤ 京都大学大学院 修士 1 年	Circular Economy Development in the Architecture and Construction Industry in Thailand	タイ	12	1,200
合計		12 件		12,600

②日本人留学生助成

助成対象者	研究テーマ	留学国	留学期間	助成額 (千円)
鈴木 健介 名古屋大学大学院 工学研究科 物質プロセス工学専攻 博士 2 年	タンパク質吸着分離プロセスのモデリング	スウェーデン	2023.4～ 2025.3	2,600
音納 陸 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 修士 2 年	生体情報と同期する仮想アバタの開発と検証	ニュージーランド	2023.4～ 2025.3	4,800
平田 紗和子 東京大学大学院 法学政治学研究科 英米法専攻 修士 2 年	アメリカ合衆国の政府による公益保護の訴訟	アメリカ	2023.9～ 2025.8	4,800

藪内 彩季 慶應義塾大学大学院 文学研究科 史 学専攻東洋史学分野 修士 2年	エジプト知識人の自伝にお ける近代化の模索	イギリス	2023.9～ 2025.8	4,800
合計		4件		17,000

③語学留学助成

助成対象者	留学先大学名	習得語学	留学 期間	助成額 (千円)
押塚 舞優 東京外国語大学 国際社会学部 国際 社会学科 カンボジア語専攻学部 2年	王立プノンペン大学 地域開発学科	カンボジア語	2023.9.1～ 2024.7.1	550
中野 蒼依 東京外国語大学 言語文化学部 言語 文化学科 モンゴル語専攻学部 2年	ホブド大学 社会・人文学部 言語文学科 歴史社会科学科	モンゴル語	2023.9.1～ 2024.9.1	550
合計			2件	1,100

資料 10

海外学会等参加助成

参加者/所属	参加学会名	開催時期 開催国	助成額 (千円)
上田 昌史 一般財団法人マルチメディア振興センター シニアリサーチャー	ITS 31st European Conference 2022	2022.6.20 ～6.21 スウェーデン	317
黒田 敏史 東京経済大学 経済学部 准教授	ITS 31st European Conference 2022	2022.6.20 ～6.21 スウェーデン	333
宍戸 聖 山形大学 人文社会学部 講師	ASCOLA 2022: 17th annual conference	2022.6.30 ～7.2 ポルトガル	380
米谷 南海 一般財団法人マルチメディア振興センター ICT リサーチ&コンサルティング 部チーフリサーチャー	Pacific Telecommunications Council (PTC) 2023	2023.1.15 ～1.18 米国	300
金 樹延 関西外国語大学 英語国際学部 助教	64th ISA Annual Convention	2023.3.15 ～3.18 カナダ	387
吉岡 悠 欧州複合大学院ユーロカルチャー 修士課程	The Asian Conference on Ethics, Religion&Philosophy (ACERP2023)	2023.3.31 ～4.3 日本	335
合計		6件	2,052

KDDI Foundation Award 本賞

受賞者	業績	副賞 (千円)
岡野原 大輔 Preferred Networks 代表取締役 最高研究責任者	先進的情報基盤技術の研究と実用に関する貢献	2,000
計	1 件	2,000

KDDI Foundation Award 業績賞

受賞者	業績	副賞 (千円)
黒田 敏史 東京経済大学 経済学部 准教授	モバイル OS がモバイルサービス市場に与える影響についての研究	1,000
高口 鉄平 静岡大学 学術院 情報学領域 教授	パーソナルデータの経済学的研究	1,000
清水 佳奈 早稲田大学 理工学術院 教授	Society5.0 時代の生命科学を支えるプライバシー保護技術の研究	1,000
種村 拓夫 東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 准教授	集積フォトニクスによる光波制御素子の先駆的研究	1,000
寺田 麻佑 一橋大学 リーガル・データサイエンス教育研究推進センター 教授	AI・先端技術と立法課題の研究	1,000
計	5 件	5,000

KDDI Foundation Award 貢献賞

受賞者	業績	副賞 (千円)
木寺 正平 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 准教授	マイクロ波・ミリ波帯電磁波による超高精度・多元的イメージングの研究	500
計	1 件	500

海外研修業務の実施状況

契約先	コース名	研修方法	参加国/人数	期間
APT	サイバーセキュリティ技術	オンライン形式	15 カ国、21 名	2023.1.16～1.31
		集合形式	13 カ国、14 名	2023.2.13～2.17

開発途上国におけるデジタルデバイド解消プロジェクトの実施状況

実施国	概 要	
モン ゴ ル	件名	モンゴルの極寒地と砂漠地帯での低廉光ファイバーアクセス網のパイロット導入
	実施期間	2018 年 12 月～2023 年 3 月
	メンバー	テレコムモンゴリア、モンゴル主管庁(通信情報技術庁)、地方政府（3 地区）、株式会社 OCC、KDDI 財団
	実施概要	広大な国土と過酷な自然環境（極寒地や砂漠など）において生活向上のために低廉な光ファイバー網を実証導入した。追加プロジェクトとして光ファイバー網拡張を実施した。
ネ パ ー ル	件名	スマートネットワーク技術を活用した地方行政サービスの展開
	実施期間	2020 年 1 月～2023 年 12 月
	メンバー	ICT4D(現地 NGO)、ネパール主管庁（情報通信技術省、ネパール通信局）、ダル地方自治体、NICT(情報通信研究機構)、Global Plan Inc.、株式会社 OCC、KDDI 財団
	実施概要	ダル地方の地域ネットワークの拡張と高信頼化を実施し、災害情報の公報、遠隔健診の拡充及び行政アプリの拡大を推進した。追加プロジェクトとして X 線撮影装置や健診キットなどを調達した。
ベ ト ナ ム	件名	被災状況把握のための画像処理技術を活用した UAV システムの研究
	実施期間	2020 年 1 月～2023 年 6 月
	メンバー	PTIT(郵政電信工芸学院)、ベトナム情報通信省、地方政府(カンナム州)、早稲田大学、KDDI 財団
	実施概要	多発する鉄砲水による被災状況把握のため、UAV を活用してデータを収集し解析するアプリケーションを開発した。追加プロジェクトとして UAV 用機能追加パーツや開発用キットを調達した。
ベ ト ナ ム	件名	医療チャットボットを活用した e サービスプラットフォームの研究
	実施期間	2021 年 1 月～2023 年 6 月
	メンバー	NIICS(情報通信国家戦略機構)、ベトナム主管庁(情報通信省)、KDDI 財団
	実施概要	WEB ベースのチャットボットプラットフォームにて、コロナ症状チェックやオンライン調査

		を実現するアプリケーションを構築した。国内標準化について研究した。
モンゴル	件名	モンゴルのルールエリアでの FM 緊急警報放送システム (EWBS) の実証調査・研究
	実施期間	2021 年 1 月～2023 年 3 月
	メンバー	モンゴル主管庁(通信情報技術庁)、国家非常事態庁、モンゴル国営放送、一般財団法人 JTEC、KDDI 財団
	実施概要	FM ラジオ放送や緊急警報放送システム (EWBS) の運用について日本の技術を紹介し、モンゴルのガイドラインやフローを作成、FM 放送用モデル局構築の調査研究を実施した。
モンゴル	件名	モンゴルのルールエリアでの FM 緊急警報放送システム (EWBS) や ROF(Radio Over Fiber)を利用したパイロットプロジェクト
	実施期間	2022 年 3 月～2024 年 6 月
	メンバー	モンゴル主管庁(通信情報技術庁)、国家非常事態庁、モンゴル国営放送、一般財団法人 JTEC、KDDI 財団
	実施概要	先行して実施した実証調査・研究を元に、パイロットシステムを構築・運用するプロジェクトに着手した。
ミクロネシア連邦	件名	ミクロネシア連邦での光ファイバー網構築と遠隔医療サービス改善のための調査研究
	実施期間	2022 年 3 月～2024 年 6 月
	メンバー	ミクロネシア連邦運輸情報インフラ省、保健省、地域医師、BHN テレコム支援協議会、香川大学、メロディーインターナショナル、KDDI 財団
	実施概要	簡易敷設による光ファイバー網構築と周産期医療に関する遠隔医療のルール地域での適応について調査研究に着手した。

資料 14

MCPC モバイルシステム/IoT システム技術検定試験対策講習会の実施状況

種別	コース名	参加人数 (延べ数)	実施日	
春 期	モバイルシステム技術検定 1 級 試験対策講習会	34 科目・名	2022.5.14～5.15 5.21	
	モバイルシステム技術検定 2 級 試験対策講習会	14 名	2022.4.23～4.24	
	一般	IoT システム技術検定試験 (基礎) 対策講習会	4 名	2022.5.28
		IoT システム技術検定 (中級) 試験対策講習会	12 名	2022.6.4、5
	個別	IoT システム技術検定試験 (基礎)対策講習会(4.5 時間)	11 名	2022.4.25
		IoT システム技術検定試験 (中級)対策講習会(8 時間)	8 名	2022.5.23 5.25

秋 期	一般	モバイルシステム技術検定 1 級 試験対策講習会	19 科目・名	2022.10.1～10.2 10.8
		モバイルシステム技術検定 2 級 試験対策講習会	54 名	2022.10.15～11.16
		IoT システム技術検定試験 (基礎) 対策講習会	6 名	2022.11.19
		IoT システム技術検定 (中級) 試験対策講習会	4 名	2022.11.5～11.6
	個別	IoT システム技術検定試験 (基礎)対策講習会(4.5 時間)	29 名	2022.11.30
		IoT システム技術検定試験 (中級)対策講習会(8 時間)	6 名	2022.10.24 10.26

以上